

平成23年 4月7日

プロジェクト報告書

団体名： 特定非営利法人東村山活き生きまちづくり

1. プロジェクト名

ハンセン病に対する正しい知識の復旧啓発事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

市民・行政・企業等との協働により地域コミュニティの実現を目指し、まちづくり・人づくり・人権の森の3つの委員会構成でNPOを組織。このプロジェクトは「人権の森委員会」が所管します。国立ハンセン病療養所「全生園」が市内に所在します。ハンセン病元患者は国の誤った施策により強制収容され、人権侵害・感染病として長い間偏見差別をされ続けて来ました。今その偏見などについて残念ながら残っている中で、次世代を含め偏見・差別・人権侵害を繰り返さないために啓もう、啓発活動をするを目的にします。真如助成事業第2年次目。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

東村山市青葉町に所在するハンセン病国立療養所「多磨全生園」内入所者自治会と協力して、ハンセン病に対する偏見や差別を解決するための講演会や地域共生の諸事業を展開して、その状況をDVD化する等啓発・啓蒙事業に努めます。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

事業の実施に当たりその事業自体が啓発活動の効果を創出するように、多摩東人権擁護委員会との合同交流会や入所者自治会との共催、東村山行政、教育委員会講演により実施する等いろいろな場面に協働思想を導入しました。事例：①国立療養所多磨全生園入所者自治会長佐川修講演後園内史跡・歴史巡り②賑やかコンサート・こだまする人権の森開催・お茶会等。地域市民と入所者が共に集うことが出来、貴重な時を過ごした。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

22年度「市民活動助成」を受け、諸事業の推進に当たり内容の充実とそれぞれ事業の高質化を図ることが出来ました。特に、昨年(21年9月28日)全生園が創設されて100年の歴史を刻んできましたが、今年度はこの歴史を踏まえ、さらに市民レベルを中心にした新しい時代への推進が望まれる中で、多様な場面で周知し、啓もう啓発に貢献できました。

6. 参考資料

作成致しましたチラシ・写真コピー・DVD(2事業)など事業関連資料をこの報告書に合わせてお送りしています。お陰様で貴重な資料と成りました。



2010.07.22 13:45



2010.07.22 13:43



2010.07.22 13:43



にき

こだます

